

伊勢湾貧酸素情報（第2報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では海水中の溶存酸素濃度が低下しており、広い範囲で2 mg/L以下の貧酸素水塊が形成されています。

7月13日の調査結果

7月13日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で25.3～29.1℃、10mで20.1～23.3℃、底層で17.7～21.5℃の範囲にあり、表層は平年よりかなり高め、10m及び底層は平年並みとなっていました。

DO（溶存酸素濃度）は表層で7.6～14.6 mg/L、10mで1.0～6.3 mg/L、底層で0.2～5.4 mg/Lの範囲にあり、表層は平年よりかなり高め、10mは平年より低め、底層は平年並みとなっていました。

底層では三重県側を中心に広い範囲で2 mg/L以下の貧酸素水塊が形成されており、1 mg/L以下も観測されるなど、先月の観測時よりさらに貧酸素化が進んでいました。

底層貧酸素水塊分布図

この時期は表層と底層の水温差が大きいことなどにより、海水の上下混合が起こりにくく、貧酸素状態は継続するものと思われます。

